



CSRレポート2020



ISO9001 ISO14001
Quality & Environmental
Management System



＜ビジョン＞ 私たちが目指す姿

1. 私たちは、独自の技術・サービスを創造し、業界をリードする会社を目指します。
2. 私たちは、最高の製品・サービスの提供を通じて、信頼される会社を目指します。
3. 私たちは、地域社会に貢献し、社会から必要とされる会社を目指します。
4. 私たちは、共に考え、助け合える、働きがいのある会社を目指します。

トップコメント



代表取締役社長
宮川 一彦

＜SDGsへの貢献は我々の義務＞

世界各地での異常気象の発生、日本でも最高気温が35度を超える夏の常態化や台風被害の甚大化など、地球温暖化が大きな原因の一つとして語られる現象が、昨今、ニュースを賑わせています。こういった地球環境へのグローバルな危機感の高まりを受け、2015年9月、国連に於いて2030年までに実現すべきこととしてSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、17項目のゴール（目標）、169のターゲットが掲げられました。

我が国でも、官民が連携してSDGsへの取組が展開されていることを皆さんご存知だと思いますがレッキスでも、事業活動を通じて様々なグローバル課題の解決に向けて取り組んでいます。

例えば、配管の耐震化、耐久性の向上に寄与する転造技術の開発、災害に強い水道・ガスの樹脂配管のための融着機の開発などに取り組んでいます。また配管後の検査のための管内カメラや水圧・満水試験器などは現場の省人・省力化というに社会ニーズへの対応にも貢献しています。

今後も、社会に求められるライフライン・サポートに努めて参りたいと考えております。

＜社会への貢献が社是＞

弊社には、創業者が定めた、“「三利の向上」という社是があり、その理念である「お客様、社員・社会の幸せ」を求める経営を守ってきたからこそ、今日までやって来られたという思いがあります。また弊社には、戦前、多くの聴覚障がい者の方々に助けられ、事業を継続できたという歴史があり、今でも障がい者雇用率10%以上を維持するとともに、地域での障がい者雇用を推進するために独自に立ち上げた「大阪府布施障害者雇用対策協議会」の事務局として活動しており、職業安定所や支援学校の方々と連携を継続しております。また地球環境保護に貢献する活動として2003年に取得したISO14001規格遵守も継続しており、毎年各部門で目標を決め、未来の子供たちにより良い地球環境を残す活動に取り組んでいます。

＜輝かしい100周年を目指して＞

2020年初めに始まった世界的なコロナ騒動は未だ終息に至っておらず、我々事業者を取り巻く環境には依然厳しいものがあります。しかしながら私たちの目指す姿には変わりはなく、当社は今後も上記の「私たちが大切にする4つのビジョン」を掲げて事業活動を行っていきます。まだまだ実現に向けて道半ばではありますが、その夢の実現に向けて社員全員が不断の努力をしていこう！という決意表明をしたものです。そしてその努力の先、2025年には、お客様、社員、そして社会から「いい会社だね！」と呼ばれる企業として輝かしい創業100周年を迎えたいと考えております。引き続き皆様のご支援を、宜しくお願い申し上げます。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

レックスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。出来上がった商品は、様々な場所・場面で使用していただき、役立っていることを嬉しく思っています。



◆2020 年度建築設備技術遺産に認定

「切削ねじ」「転造ねじ」の開発が一連の関連技術遺産として一体で評価されました。



建築設備技術遺産

認定第38号 自動切り上げダイヘッド付き切削ねじ切り機および 転造ねじ加工機



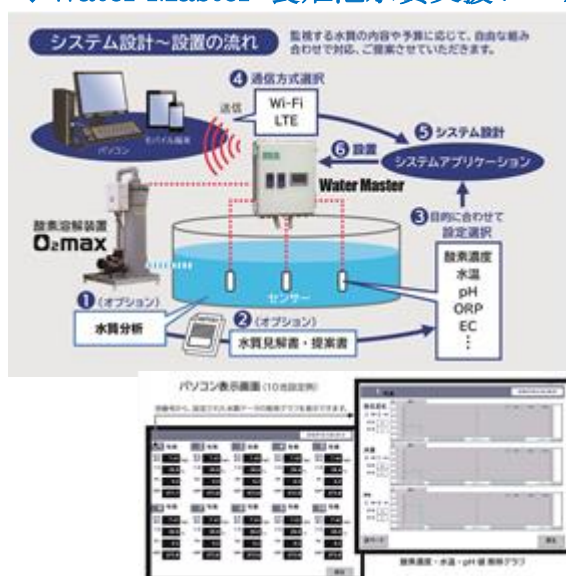
「建築設備技術遺産」とは、建築設備における空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す具体的な事物・資料であって、建築設備技術の進歩・発展において重要な成果を示したものや、生活、経済、社会、地球環境、技術教育に貢献した、または当時を反映する技術遺産である建築設備技術のいずれかに合致するものをいいます。今回の認定は昭和4年日本で初めてオスタ型パイプねじ切り器の国産化に成功したことから始まりました。その後自動切り上げダイヘッド付きのパイプマシンが登場したことにより、作業者の経験と勘に頼っていたねじ切り作業は未経験者であっても熟練者と同じ品質でねじ加工ができるようになりました。更にこの切削ねじ切り機に続いてより良い丈夫な配管ねじを実現するために、塑性加工でねじ加工を行えることができる転造ねじ加工機の量産化にも成功しました。ねじ部の肉厚を確保できるため溶接並みの機械的接続強度を実現し耐環境性、耐腐食、配管の長寿命化にすぐれたねじ接合の可能性を切り開きました。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

レックスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。出来上がった商品は、様々な場所・場面で使用していただき、役立っていることを嬉しく思っています。

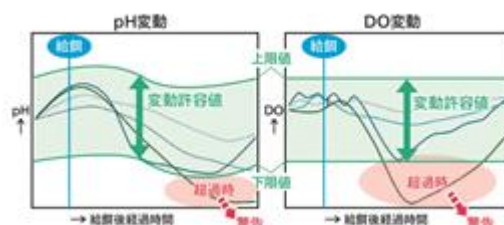


◆Water Master 養殖池水質支援システム



●失敗しない養殖のためのシステム

長年培った当社独自の電子技術で、養殖池の水質異常を事前に防ぐ画期的なシステムです。水質ごとの変動推移をグラフ化し池の状態を可視化します。水質変動許容値を設定することで最適な養殖環境をサポートします。設定した許容値を逸脱した場合は作業者に通知し適切な水質対策を行い水質の早期改善を行う事で、養殖魚の斃死を防ぎます。



◆みるみるくん 水圧・空圧・満水試験記録器



これまでレックスは、「配管すること」を主たる事業として参りましたが、「配管検査」や「配管トラブル解消」など、それぞれの現場の課題にチャレンジしています。みるみるくんシリーズに新たに空圧試験器Ⅲを追加し、排水管・空調ドレン管の高精度な気圧試験にも対応できる機種が誕生しました。みるみるくんシリーズの特徴・メリットとして、センサーによる取得データの変動値を自動計測し記録する、記録保存したデータのメール転送が可能など、データ管理の効率化や、作業工数の削減効果が増しました。

障がい者雇用への取り組み

創業以来、障がい者雇用には積極的に取り組み、障がい者の方が安心して働ける会社づくりを進めています。2020年6月現在では、障がい者雇用率は12.47%と高い雇用率を維持しています。具体的な取り組みとして、社内報告会では聴覚障がい者のために外部に手話通訳を依頼したり、入社員へ社会人として必要な知識の勉強会などを実施しています。これらの成果、実績が認められ昨年12月に大阪労働局より「障がい者雇用優良中小事業主」（通称：もにす）認定を受けることができました。



◆聴覚障がい者への取り組み

四半期毎に全社報告会を実施しています。そのほかストレスチェックのフォローとして社内研修会、健康をテーマにした健康教室など全社レベルの報告会を数多く行っています。その際には必ず手話通訳者を外部に依頼し、報告・研修内容の理解に力をいれています。鳥取工場の聴覚障がい者にも伝わるように手話通訳はインターネット中継もしています。



◆地域で働く障がい者への取り組み

毎年5月の第二日曜日に「大阪府布施障害者雇用対策協議会」を代表して、周辺企業で働く障がい者の支援として「東大阪市民ふれあい祭り」に参加しています。今年と去年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、例年は多くの会員企業様から頂く、バザー出店用商品が順調に売れています。また社員もバザー品を店の前に立って紹介したり、スーパーボールすくいもしたりで活気と楽しさに満ちたお祭りです。



バザー店での収益金は全て同対策協議会に寄付しています。

この寄付金は会員企業で働く障がい者の雇用定着を目的としたレクリエーションの一部に使われています。

例年、観劇「吉本新喜劇」に招待しており、観劇後の集合写真でも伺えますが、皆さん楽しんで頂いております。



支援学校との交流

季節毎にたまがわ高等支援学校の生徒さんたちに花壇いっぱいの花を植えていただいています。花は近隣住民の方々にも鑑賞していただき、当社の風物詩になってきました。夏の取れたての野菜の販売も続いています。職場への受入れは春先に工場見学、6月からは随時各支援学校と調整をし、職場実習の受入れを行っています。そして生徒さんの頑張る姿を何時も応援しています。



◆工場見学や職場実習の受入れ

支援学校からの工場見学は新学期からの職場実習先を選ぶなどの理由で3月から始まります。昨年は春先の受け入れについては、コロナの影響で延期となり、11月にたまがわ支援学校より1名、12月に王子工業高校より1名、2月に東大阪支援学校より1名、来られました。

たまがわ高等支援学校からは入学したばかりの一年生が社会勉強を兼ねて来られます。見学後の質疑応答では初めてのことばかりなので多くの質問をいただきます。この工場見学をきっかけに今年も、11月に職場実習に来られる予定です。



◆夏野菜の即売会

たまがわ高等支援学校の生徒さんが毎年8月にその日の朝に収穫したばかりの野菜を持ってきてくれます。この野菜は当社の昼休みの時間帯に販売され、社員が我先にと集まって飛ぶように売れていきます。朝の収穫から販売準備し、販売中も手を休めることなく、一日中頑張っている生徒さんには頭が下がる想いです。



◆季節を彩る花を花壇に♪

春にはスミレや菜の花、秋にはコスモスと季節を彩る花々を会社前の花壇に、たまがわ高等支援学校の生徒さんに植えてもらっています。植えられた花は成長が早く、近隣住民の方々にも立ち止まり鑑賞していただいています。

12月には葉牡丹を植えていただき、四季折々の植物を眺めることができ心がとても和みます。先生方や生徒さんに感謝しております。



未来ある子どもたちへの支援

これからのこどもたちのために何ができるかを考え、児童施設への定期的な寄付や、会社行事への招待などを中心に支援を続けています。大阪市内にある児童団体には寄付金を毎月送金し、東大阪工場の近隣児童施設の子どもを年二回の会社行事に招待をしています。またペットボトルのキャップを全社で集め・支援団体に送り、世界中の貧困の渦にいる子どもたちへ繋がることを願っています。

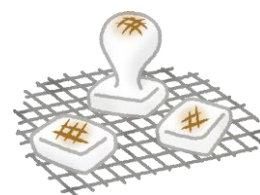


◆児童施設への寄付

定期的に児童施設への寄付を続けています。9月に奈良の児童発達支援施設「すくすく」に支援金を寄付しています。重度な障害をもって生まれてきた子どもたちですが、先生と居る施設内では精いっぱい明るく、楽しく過ごされています。他の施設の子どもたちともコミュニケーションを図る行事などに参加もされています。



年末は市内の児童施設「生駒学園」へお餅の寄付を続けています。同時に近隣の老人会へもお餅を寄付しています。年明けには同施設の子どもたちより毎年お礼の貼り絵が届きます。お餅を焼いて膨らんだ可愛い絵などが私たちを楽しませてくれています。



「貧困や機会差別をなくし、虐待に苦しむ子どもをゼロにする」を理念に活動されている「みらいこども財団」へ毎月寄付金の送金を続けています。同財団は大阪と東京を中心に児童養護施設への訪問活動を続けられています。



◆近隣児童施設の子どもたちを招待

昨年と今年は、コロナの影響で中止になりましたが、例年年二回、本社工場近くの児童施設「若江学院」の子どもたちを会社行事に招待しています。5月は東大阪市民ふれあい祭りの模擬店に。7月には工場内でのバーベキューパーティに先生と一緒に来てくれています。



夏の夜は暑く、5月も天候良く熱い陽射しですが、そんな中でも子どもたちは元気に「かき氷」「ジュース」「お肉」をほおばり、「スパーボールすくい」「ボール投げ」「ビンゴ」などのゲームを時間いっぱい楽しんでくれています。

一緒に居る私たちもその様子を見ながら、毎年楽しいひと時を過ごしています。



地球環境を大切に活動

「事業活動を通じて、環境保護に貢献する」を環境方針に掲げ、設計段階から環境配慮した商品や、生産活動における電力削減、徹底したゴミ分別による排出されるゴミの削減（リサイクル率向上）などを重要項目として取り組んでいます。特にゴミの分別に関しては、分別しやすくするための改善を推し進めています。



◆駅前清掃の継続

コロナ禍の影響で回数は減りましたが、今年も駅前までの道のりで清掃を行いました。ゴミも拾い出すと無心で集める社員の姿が見られ、心もきれいになったようでした。また、地域に育てられたご恩も忘れずにいたいものです。



◆ゴミの分別徹底へのさらなる工夫

捨てるゴミを減らすためゴミを分別するための工夫・改善を続けています。昨年廃バッテリー電池の収集箱を設置しましたが、誰が見ても分かりやすいように一次電池と二次電池の写真を掲示し、小さな改善を継続しています。

このような取組みを通して社員の意識も毎年向上し、今年も目標のリサイクル率97%以上を維持しました。



◆継続した環境活動を目指して

他社の活動事例や、自治体の環境への取り組みなどを把握することで活動に取り込めるものはないかを知ることができます。今年はコロナ禍による影響で移動が思うようにできませんでしたが、弊社がお世話になっている産業廃棄物処理業者様のリサイクル工場へ少人数でしたが、訪問することができました。改めて分解作業の大変さが分かったり、リサイクルされた圧縮発砲スチロールの姿に感動しました。また、PCや機密文書のリサイクル時における機密保持の取組みは厳重に管理されており、想像以上のセキュリティーであったことはいい勉強となりました。



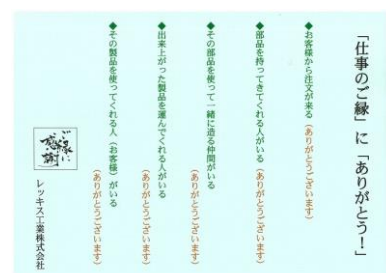
働きがいのある職場づくり

社は「三利の向上」より社員満足に繋がる「働きがいのある職場づくり」を進めています。社員が健康で、活力ある職場を目指し、「ありがとう経営」など色々な取り組みを続けています。



◆ありがとう経営の実践

ほめ合う文化をつくろう！の合言葉で始めた社内ネットワークの掲示板「ほめ合える掲示板」には多くの「ありがとう！」の書き込みがあります。始めた当初は書き込みに対して抵抗感があった社員も、今ではあたり前のように書き込みをしてくれるようになりました。もちろん掲示板以外のところでもありがとうの言葉が職場内・職場間で広がりを見せています。



◆効率よく仕事をするための工夫・改善

仕事を楽に！を目指し様々な場面、工程、場所で改善が行われています。今年は優秀提案賞が2件出ましたが、いずれも複数の部門間に関わり協力し合う内容で、組織の横串が刺さった活動となりました。改善を通して組織の活性化を感じられるようになりました。



◆健康経営優良企業ブライト500の認定を受けました。

2017年度より本格的な健康経営の取り組みを始め、2019年度に健康経営優良法人の認定を受け、2021年度は健康経営優良法人の中でも優れた企業（認定法人数8,470社）の内、上位500法人に与えられるブライト500の称号を得ることができました。

これは、フレックスタイム等で適切な働き方実現に向けた取り組みで、ワークライフバランスの推進をはかってきたこと、コロナ禍での多様な働き方（在宅ワーク、休業、短時間労働、時差出勤等）を取り入れてきたこと、そして社員へマスクを配布したりと衛生面においても感染リスク防止に向け取り組んできたことが評価されたと思います。

今後もストレスチェックのフォローや、健康診断のオプション受診なども定着化させ、社員が安全で安心して働ける環境整備と働きがいのある職場づくりに努めてまいります。





大正 14 年 8 月 1 日、創業者・宮川作次郎がレッキス工業の前身である宮川工具研究所を創立し、お客様に喜んでいただける配管機械工具の開発に日々努力・研鑽して参りました。

社は「三利の向上」にもあるように、我々は、お客様と社員と社会、すべての人が良い状態でなければ、会社の繁栄はあり得ないと考えています。

三利の“利”とは、商売の利や儲けのことだけをいっているのではなく、広い意味での「利」つまり「ためになること」を意味します。

企業として「お客様の心を捉えるものを造れなければ意味がない」「良い物を造っても売れなければ何もない」が、創業者の経営哲学であり、お客様の心を捉えるために、どのような努力も惜しまず、全力投球でチャレンジすることが当社の根本精神です。

NOTE



あ り が と う

明るく元氣な職場をめざし

理想と理念を高く持ち

(か) 感じたことを言葉にして

共にはめ合い、助け合い

嬉しい気持ちを分かち合おう！

二〇一五年 一月二日 今作



この「ありがとう！」語録は、私たちが目指す理想の姿「社員一人ひとりが元気で、働きがいのある会社」を実現するための「合言葉」になればいいなと、皆様の知恵を集めて作ったものです。

まさしく感謝とは「感じたことを言葉にして届けること」です。言葉でお互いの心と心がつながり合えば、きつと明るく楽しい職場や会社になることでしょう。

上司は部下の行動を感謝の気持ちでほめ、仕事は助け合いと、会社にいると気持ちが湧き上がってくるような、そんな働きがいのある会社にしましょう！

レッキス工業株式会社